

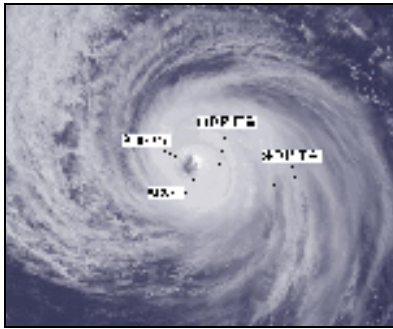
日 立 の 気 象 ⑨1

9月 「語りつぐ 台風災害」 大雨に備えて④

熱帯低気圧（トロピカルサイクロン：TropicalCyclone）は、海水温が高い海洋上で積乱雲が渦状にまとまり発生します。

このうち北西太平洋（赤道より北で、東経 180 度より西の領域）に存在し、最大風速が 17.2m/s（34 ノット、風力 8）以上のものを「台風」と気象庁は定義していますが、国際的には最大風速が 64 ノット以上のものを「タイフーン」(Typhoon)と呼んでいます。

世界の熱帯低気圧の中でも台風は発生数が最も多く勢力も最強といえます。



【台風の眼と降雨帯】（気象庁資料）

台風は、垂直に発達した積乱雲が眼の周りを壁のように取り巻いており、そこでは猛烈な暴風雨となっています。この眼の壁のすぐ外側は濃密な積乱雲で、激しい雨が連続的に降っています。さらに外側の 200～600km のところには帯状の降雨帯（バンド）があり、激しいにわか雨が降ったり、時には竜巻が発生することもあります。これらの降雨帯は、図のように台風の周りに渦を巻くように存在しています。

過去日立に最も大きな被害を与えた台風は「カスリーン台風」（昭和 22 年 9 月 15・16 日）と考えられます。この台風は典型的な雨台風で、紀伊半島の南海上を北上し、9 月 15 日に北緯 32 度を越えてから北東に進路を変え、同日夜房総半島南端をかすめて 16 日には三陸沖へ進みました。



台風が日本に接近したときには衰弱しており、強風による被害は少なかった反面、日本付近に停滞していた前線の活動が活発化し、関東地方と東北地方では大雨となり、日立の降水量（神峰山観測所）は 13 日 20 時から 15 日 22 時までに 106mm、さらに 15 日 22 時から 16 日 2 時までの 4 時間に 163mm、合計 269mm に達しました。急峻な谷での土石流や宮田川の氾濫などで、日立鉾山の社宅が流失、死者 28 人を出す災害となりました。

このように台風が関東の南を北東に進む場合、湿った気流が県北山間部にぶつかり、大雨を降らせることがあるので注意が必要です。

日立の気候表

【平年値（1971～2000年）】

	8月	9月	10月
平均気温	24.8℃	21.6℃	16.6℃
降水量	148.2mm	197.9mm	159.2mm
日照時間	181.3時間	129.9時間	152.5時間

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~hteniso>

また、JWAY ケーブルテレビの日立市行政放送(5チャンネル)で、天気予報(毎日2回)や悪天が予想されるときには臨時の気象情報を発表しています。

電話での問合せは、直通電話 22-5520 IP 電話 050-5528-5066 へどうぞ。